



清久ありて海  
下

特別  
~5  
6058  
2



八五  
6058  
2



續有及海

雜 擬朗詠集下卷

風

有及乃浦迤里も里て志す  
水乃乃漆乃一足も体す

先のそをわめは合歡

陰うも日あさ乃風也

風吹ておりる日也

雲

唯笑

嵐音

如行



57-2524

子門を雲の影に映せしむる  
露川 オクリ

いりいり イカ 投卵

雨風乃根をまきしむる 黒出寄 沙明

水乃秋日 セ 回虎

風乃雲乃 正秀

晴

畑をいれや青とに花けしむる 野坡

紙をまきしむる 風喬

晴ある羽力ア人さる 燕子 燕人

まきしむる 秋之坊

晴

嘗乃まきしむる 万子

通費 カ、ハキ 千人

あつ 路健

ま

重 如行

旅のしるし

雪汗乃ささくささくささくおはせ 夕照

雨あつりきりおはせ 文流

枯乃ち。ちんちんちんちんちんちん 路健

草一葉一ちんちんちんちんちんちん 為骨

行々々々々々々々々々々々々々々々 芝柏

竹

竹乃子乃綱たる。枝乃のちんちん 竹雀

竹乃子乃ぬいしてはさしり 晴乃 吏全

糸乃の糸を拵る。あけ外 八子

糸乃の風よ。ちんちんちんちんちん 斜嶺

とま。竹乃ぬい村乃つち 林叙

糸乃の糸を拵る。ちんちんちんちん 浪全

枯乃のちんちんちんちんちんちん 万子

糸乃の糸を拵る。ちんちんちんちん 糸孫

草

福年や小葉よんくそいしと 史邦

物る實たるいづぬ箱やまはるま 文子

昔代よる花もいりりり 真女

昔乃花よるいりりり 金鳳

白葉よる糸あはるいりり 菊

いりりりや南よりいりりり 可南女

いりりりやいりりりいりりり 桑イナミ

切りりり針のいりりりいりりり 市中高野

酔年味憎は却晚いりりり 素鏡ツクリ

いりりりいりりりいりりり

いりりりいりりりいりりり 游刀

猪乃とんいりりりいりりり 曲風ツヨ珠

常程たるいりりりいりりり 風國

鶴

いりりりいりりりいりりり 桑枯

鷹匠いりりりいりりりいりりり 如り

猿

河を<sup>イカ</sup>下りて暮れ下り猿の<sup>イカ</sup>投下

藤<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>葉<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>深<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>淵<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>石<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup> 千川

葉の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>を<sup>ク</sup>聞<sup>ク</sup>け<sup>ク</sup>し<sup>ク</sup>た<sup>ク</sup>く<sup>ク</sup>や<sup>ク</sup>猿<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup> 釣<sup>ク</sup>ま

竹<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>葉<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup> 付<sup>ク</sup>舞<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>

伶<sup>ク</sup>人<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>門<sup>ク</sup>を<sup>ク</sup>あ<sup>ク</sup>り<sup>ク</sup>あ<sup>ク</sup>か<sup>ク</sup>や<sup>ク</sup>ま<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup> 其<sup>ク</sup>音

自<sup>ク</sup>然<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>に<sup>ク</sup>照<sup>ク</sup>る<sup>ク</sup>や<sup>ク</sup>神<sup>ク</sup>樂<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup> 其<sup>ク</sup>音

又<sup>ク</sup>詞<sup>ク</sup> 付<sup>ク</sup>遺<sup>ク</sup>文<sup>ク</sup>

古<sup>ク</sup>文<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>に<sup>ク</sup>一<sup>ク</sup>日<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>に<sup>ク</sup>一<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup> 浪<sup>ク</sup>全

芭蕉の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>を<sup>ク</sup>と<sup>ク</sup>り<sup>ク</sup>乃<sup>ク</sup>年<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>堅<sup>ク</sup>田<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>

<sup>セウ</sup>の<sup>ク</sup>伊<sup>ク</sup>賀<sup>ク</sup>乃<sup>ク</sup>長<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>に<sup>ク</sup>一<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>に<sup>ク</sup>一<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup> 成<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>

を<sup>ク</sup>他<sup>ク</sup>テ<sup>ク</sup>宇<sup>ク</sup>津<sup>ク</sup>乃<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>に<sup>ク</sup>一<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>に<sup>ク</sup>一<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup> 其<sup>ク</sup>音

酒

酒<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>を<sup>ク</sup>と<sup>ク</sup>り<sup>ク</sup>乃<sup>ク</sup>年<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>堅<sup>ク</sup>田<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup> 斜<sup>ク</sup>嶺<sup>ク</sup>

追<sup>ク</sup>て<sup>ク</sup>酒<sup>ク</sup>を<sup>ク</sup>と<sup>ク</sup>り<sup>ク</sup>乃<sup>ク</sup>年<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>堅<sup>ク</sup>田<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup> 夕<sup>ク</sup>道<sup>ク</sup>

追<sup>ク</sup>て<sup>ク</sup>酒<sup>ク</sup>を<sup>ク</sup>と<sup>ク</sup>り<sup>ク</sup>乃<sup>ク</sup>年<sup>ク</sup>ハ<sup>ク</sup>堅<sup>ク</sup>田<sup>ク</sup>の<sup>ク</sup>音<sup>ク</sup>

酒よきるぐんさ灘のくれは

野崎

棟上り酒りりきりしり家

正秀

山 付山山

後りりりりりりりりりりりり

少枝

りりりりりりりりりりりり

夕花

家よきるぐんさ灘のくれは

藤人

山原電や起りりりりりりりり

昌風

山原電や起りりりりりりりり

浪全

山

りりりりりりりりりりりり

有者

山原電や起りりりりりりりり

林和

山原電や起りりりりりりりり

児殿

山原電や起りりりりりりりり

吉兼

山原電や起りりりりりりりり

呼丁

山原電や起りりりりりりりり

胡仲

山原電や起りりりりりりりり

李由

中食の鵜飼くくくあまふ

浪化

標中

大雪の降り

九重より下りぬ宮内御所

去妻

万葉の内事とて清浄

游刀

故宮

長閑に今も目もあやう

昔本

あつたの想本とらん八重様

浪化

故宮 付及宅

筑紫のそと野置乃園

本乃丸及乃旧跡也感あり

歌聲乃地や栲野乃くへ

日田 朱拙

礎乃きつみあつたや

京 蒙野

真先平より水多の丸乃清の地

日 范亭

仙家付道士隠倫

人よ吐く息をあたらん各公記

日田 干那



隠士乃非 かき ー

蓮乃実乃中 ひ ー

万子

万子

雲乃入 も ー

菰人

乃乃猪乃行 乃 ー

浪合

乃乃猪乃行 乃 ー

天堽 大サカ

乃乃猪乃行 乃 ー

梅素

田

乃乃猪乃行 乃 ー

文

一日二日田 乃 ー

乃乃猪乃行 乃 ー

烏青

乃乃猪乃行 乃 ー

大丸 黒

乃乃猪乃行 乃 ー

一洞 カ

乃

乃乃猪乃行 乃 ー

汶泗 イナ

石波心と程凡く... 程凡く

井波乃林下... 者た

奥綿むく白のや里乃... 惟榮

夕くは乃生... 海動

辛乃葉乃... 丹岫

只のより桶乃輸入... 昌房

隣家

行安... 岩音

陽... 蕪人

ひ... 陽和

山寺

ふ... 正秀

佛事

百姓... 如行

涅槃會... 十丈

灌佛... 観行

宇治

八日茶乃きぐやそく興聖カノヤサキ季毫

連うーそせぶカノヤサキ亦るカノヤサキ大浪

僧

先僧も雲も睡るやぬら花ミナ文身

墨深き船乃ーやミナ林紅

閑居

らゝの何のミナ舟乃ミナ大坂ミナ依く

後乃牡丹乃ミナ夜起りミナ三惟

涼しきミナ舟乃ミナ好風ミナ

秋乃卷乃ミナ舟乃ミナ大坂ミナ

那

後乃舟乃ミナ

青波乃志乃ミナ詩六

月乃乃ミナ舟乃ミナ日田ミナ幽泉

あし乃海乃ミナ舟乃ミナ長根ミナ鏡

賤別

書

よきとくしと申國ノ盛ニ候

美行平田のしとくしと申國ノ盛ニ候

旅のしとくしと申國ノ盛ニ候

別荘のしとくしと申國ノ盛ニ候

里のしとくしと申國ノ盛ニ候

けさのしとくしと申國ノ盛ニ候

行旅

旅のしとくしと申國ノ盛ニ候

水柱オハリ

湖のしとくしと申國ノ盛ニ候

山草のしとくしと申國ノ盛ニ候

箱根路のしとくしと申國ノ盛ニ候

山草のしとくしと申國ノ盛ニ候

熊野のしとくしと申國ノ盛ニ候

谷のしとくしと申國ノ盛ニ候

花のしとくしと申國ノ盛ニ候

花

花

五蘭盆やふりさけし遊ひ今 路健

風平ゆきまじり顔の粧ぬ身 <sup>ミ</sup> 時筋

庚申

ふむまへさきくもや庚行 <sup>アリク</sup> 路青

け後をへり乃くまゝ。花アハ 其角

帝一王 付法皇

親王 付王孫

丞相 付執政

將軍

刺史

右乃題發白紙

詠史

綿披や本乃子あまに因子塞 <sup>カ</sup> 蕪守

驪山舉燧因褒姒

月代と雲まぬりし花ゆら 浪全

王昭君

さしこの勤るあしな一ひんあ母  
あし松籠乃屏風平しあは  
あし繪あしの舞舞あし  
馬あしあし一あはああああああ  
あし一行あしあしあしあしあし  
あしあしあし

照るあしあしあしあしあしあし

万子

妓女

あしあしあしあしあしあしあし

林紅

あしあしあしあしあしあしあし

此筋

遊女

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

老女

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあしあし

交交

なまらるゝとくハ昔の月

楚舟

赤い酒乃たまふ

夕花

唯此也

陽をたはりて雲れぬ

仙世

千調

誰〜え雲の唯今物ま

惟此

懐旧

懐旧  
唯此也

秋む〜葉の

東武  
素塵

昔の庭 泪乃露

〜

〜

〜

〜

〜

〜

小枝

〜

〜

里人といふは

卯月年

乃墓乃其年

〃〃や古墳乃数

似まやも

すく

〃〃

体懐

嘆

ま乃穂乃

夜

秋乃比

孤

病後

録



慶賀

路健氣定よりと真つ

あつたな洞風の木香や久遠

出中様下へえ振まきや

祝

真天白くあつたお花や

初年よりと心懸乃と

又乃と

寛青

浪介

伴六

昌良

とれとあつたあつたあつた

戀

蝶鳥下へとあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

柳より合點細くあつたあつた

出行や小野のあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

甘藷

菊

昌良

昌良

昌良

昌良

あはれもなきに

あはれもなきにやうしとて

大

共相

愁眉啼粧為妖態

泣きわらふ顔に似たりや

林泉

一

あはれもなきに

あはれもなきに

あはれもなきに

七

あはれもなきに

あはれもなきに

本

魚

あはれもなきに

あはれもなきに

有

定風

あはれもなきに

あはれもなきに

林

あはれもなきに

李

湖邊のさくら

はるかに花を散らす

其角

句

有めと様れつく雲共あはれ

浪全

はるかに乃降子よめ

風青

縁有磯海下巻

元禄丁丑乃る鳥落人  
京師より故のり杖の跡を  
て有る乃る故のり杖の跡を  
我妻麻も訪きて半日乃雨談  
り一毎慮多あり

歌仙礼吟 半時

草一蕙に花を散らす

浪全

本まゝ乃蝶乃花を散らす

惟幾

乃るはるかに花を散らす

拾貝

又花散らすの舟を散らす

林如

目もあつていふはれぬ重の 法

れまは 菌キノなるゝの 化

禪寺八且那乃すよ秋の風 叙

漆シもあつていふはれぬのつゝ 焚

まゝいふはれぬのつゝ 企

狐乃人キツネノヒトを化すを別 叙

傘も本履もいふはれぬ 焚

外百番うゝ習取ウツのつゝ 企

序シは九月ク子シ誰ニれ呼ハまやう 焚

凡ツ乃ニ妻メを形カしてん 叙

うゝも也ヤ漆シ乃ニ指サを打ウてん 企

いふはれぬのつゝ 同

花ハ乃ニまもたれまもあゝるをん 叙

まゝいふはれぬのつゝ 焚

陽ヨウまゝいふはれぬのつゝ 企

黄ワウ乃ニまもたれまもあゝるをん 叙

大株なる藤と秋と植すし

一羽ついでん乃葉残り

跡うらつらハたはし 朝乃月

本株乃干す道乃

けいふたふーとふ。たはす所

車まかふとつふふ

平乃ふふ乃乃袖とびつら

米乃ちふとふとふとわが

有ゆと家乃乃氣の落付し

了解すしと登のさし

口の事一と遊びあふふ

此乃下冬に近う成り

ま畑ふまふと二又買をえし

すうれあふハ今や

轉つてはふとふの

くゆふとふとふ三月の

浪令十一

有破

拾貝一

惟焚十三

揚句一

林叙十

乃ほるほり 増れひるる 為款此

蕨人

家うちねのうらな 採

浪令

眠とくも 肌乃事いよそり 此

林叙

擁師の舟れそ 河原影

人

平砂又すく 洗まやうの 雲おへ

化

くくあし かくし かくし

叙

了學下々入るる人の心

一多自月々々々々々々々

お薬と薬と薬と薬と薬と

大ざーとのち長口

鼻一帯下々々々々々々々女姓

小袖乃々々々々々々々川

曝布姑一々々々々々々々

ささささささささささ草やね

之飼乃病馬さむる却の月

やあさささささささ鱒

まじい花よ梅月とつる原

三々人々々々々々々々風

ささささ下々々々々々々々

鉢巻ささささささ草

はめしおしおささささささ

河の流るるささささささ

持あつて行橋をよむにあら

化

五人のほの影は出づ

叙

弟もあつて解つてあつたせし

人

置大懸してり舟

全

有明乃つてえんが照りたり

叙

辰乃あまのひの花を

人

面<sup>ラキ</sup>ぬ道にひるむ秋のれ

化

瓦乃層々数年い

叙

なつとちるる風吹き

叙

何んぞあつて何んぞあ

人

行はつてあつてあつてあ

化

おまのしきき

同

伊賀越え花乃あつてあ

人

あつてあつてあつてあ

叙

三十一

三十一



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

初電下 風乃金一標下  
路健

冬乃小鳥を祢海小敵  
浪令

冬と夏儀を真よし  
海青

屋根の中をうらむ後や  
健

降念しぬそ月すむ曾のま  
令

蛇乃輪乃穂も一  
青

寺乃稱しやうのしやう久くのくのの健

刺力しりきのしりきのの馬治ばぢ 企

日彌ひやととのの株くさ 健

遊乃ゆの二番にばんのの化 健

入い初はつのの標めがのの音譜おんぷ 音

盆乃ぼんののああののなな 企

ううハハももままハハののややののなな 青

おおハハ乃乃ききハハののななのの中ちゆう 企

者乃もののの龍りゆうののななののなな 音

ああののままのの本ほんのの終しゆうののななののなな 健

いいののままのの白はくののななののなな 化

本ほん骨こつのの乃の舟ふねののああののななののなな 青

開ひらキキののななののななののななののなな 健

まが舞のちのちのちのちのちのちのち

全

給乃下を飲つけ

青

あつたのちのちのちのちのちのちのち

健

其のちのちのちのちのちのちのち

全

まじつと物のちのちのちのちのちのち

青

祢宜乃おせの所を

健

西のちのちのちのちのちのちのち

全

ひよりほの乃鑑持

青

舞のちのちのちのちのちのちのち

健

自然とよ乃花のち

同

世のちのちのちのちのちのちのち

全

白のちのちのちのちのちのちのち

同

のちのちのちのちのちのちのち

青

余程のちのちのちのちのちのち

同

舞のち

全

水乃... 海... 岸... 草... の... 中

ら... び... 乃... 穂... 穂... 穂...

腹... の... 旅... 跡... の... 土... 乾... け... け...

足... ぬ... 乃... 顔... 乃... ち... ち... ち...

お... ち... け... ね... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

つ... 突... け... 卓... 案... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

加列  
水枝

浪合

呂風

相仲

林叙

東全

此のころ八朝の世に

菫人

ひまはひまの世に

梅素

くさくさ使の世に

汲酒

たつたつたの世に

桑杯

たせくけの世に

路健

掃除の世に

和久

たつたつたの世に

夕泥

あつたあつたの世に

風青

あつたあつたの世に

全

あつたあつたの世に

枝

あつたあつたの世に

全

あつたあつたの世に

和

あつたあつたの世に

仲

あつたあつたの世に

風

あつたあつたの世に

振

あつたあつたの世に

人

おくりのすいしちしと酒くも

酒 素 个

酒 素 个

酒 素 个

酒 素 个

酒 素 个

酒 素 个

酒 素 个

久 伸 風 全 技 業

久 伸 風 全 技 業

久 伸 風 全 技 業

久 伸 風 全 技 業

久 伸 風 全 技 業

久 伸 風 全 技 業

浪全 三 長風 三

胡仲 三 林叙 三

史全 三 蘇人 二

梅素 三 長泗 二

桑拓 二 路健 二

和久 二 夕祀 二

嵐青 二

遊加

文神の於ては、  
たゞの文通  
の會つては、  
於吟の事

浪全の事も、  
大洲

其下は、  
風全

相見の事も、  
浪全

相見の事も、  
去来

藤原公方  
 御所  
 御  
 二階  
 湯洗  
 御  
 御  
 御

多  
 有付  
 風  
 中  
 蒲  
 萬  
 花  
 花  
 花  
 花  
 花



ま〜ハ花まきれ石乃かあ  
生草

孤ハ除と根、阿のちり  
句

夜まよ〜〜お  
風

鈴鹿をさめる錫杖の獄  
今

空の尾の痛えハ世よぬのち  
浪全

穂蕪子平 鄭しんのしん  
同

〜〜〜  
同

目おめのめのめのめ  
同

〜〜〜  
浪全

〜〜〜  
文

〜〜〜  
々

〜〜〜  
浪全

〜〜〜  
風

〜〜〜  
々

〜〜〜  
々

〜〜〜  
浪全

How long?

How long?

卷一

三十一

文州 十一

風 十

浪 九

志 五

一之禄成實

仲文之上旬

仲文之上旬

...

